

令和3年度広島県立呉特別支援学校センターだより



カメラリア Camellia

第3号
令和3年9月2日発行

—カメラリアは、ツバキ科の植物の総称です。呉市民の花はつばきであり、本校校歌の歌詞にも含まれています。—

8月の長く続いた雨も止み、気持ちのよい天気が続いています。多くの学校が、夏休みが終わり、子供たちが元気に登校・登園していることと思います。

本校では、7月から8月の間に、次年度に向けた教育相談を行わせていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、やむを得ず、校内見学を中止としましたが、教室等の写真は、本校ホームページ上のパワーポイント資料に掲載していますので、御覧ください。

【参照】http://www.kure-sh.hiroshima-c.ed.jp/22TOPI1-21/18_kyouiku_soudan/r3/r3gakkousyoukais.pdf

今年度、多くの学校から巡回相談の御依頼をいただき、巡回相談に行っています。その巡回相談時に、子供たちの問題行動について、同様の質問をいただくことがあります。今回の通信では、その質問の解決に向けた考え方について紹介します。

ある日の巡回相談の一場面

特別支援教育コーディネーター
「どのような子供の行動にお困り
でしょうか？」



A 学校 B 教諭
「授業中に友だちと話をしている
子供たちがいて、授業に集中
していません。どのようにし
たらよいでしょうか。」

上記の A 学校 B 教諭と同様に、授業中に子供たちが友だちと話すことを止めないことに困っている先生方はいらっしゃらないでしょうか。どの問題行動にも共通することですが、子供たちが行っている行動の背景を考えることが大切です。

「授業中におしゃべりをやめない」という行動の背景を考えた場合、次のようなことが考えられます。まず1点目は、授業の内容がわからないので、その時間を楽しく過ごすために、友だちと話をしている。2点目は、授業に集中することが難しいため、友だちと話をしているということです。



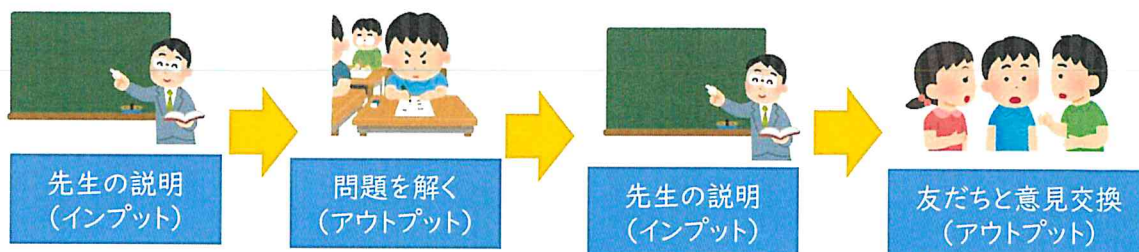
まず、1点目の授業の内容がわからないということであれば、その子供が授業の内容が分かるように授業改善が必要になります。どのようなところで、子供がつまづいているのか実態把握をすることが必要です。子供によっては、先生の口頭指示のみでは理解が難しいことや文章題を読むだけではイメージがもちにくいために理解が難しいことも考えられます。そこで、子供のつまづきに応じた授業の工夫を行います。

次に、2点目の授業に集中することが難しいということについてです。例えば、講師が2時間話すだけの講義を私たちが受講する場合に、皆さんは最後まで集中力がもつでしょうか。非常に興味・関心がある内容であれば、集中力がもつかもかもしれませんが、新しく知る内容や、少し難しい内容となると、最後まで集中力を切らさずに聞き続けることは難しいのではないのでしょうか。講師の方々には、講義の途中に、自分で考えたことを書く時間や近くの人と意見交換するアウトプットの時間を設けるなど工夫をしています。聞く活動やアウトプットの時間を組み合わせることで、気持ちを新たに活動に臨むことができます。

これは、子供たちの授業にも同様のことが考えられます。例えば、担任の先生の話聞いた後に、板書をノートに書くことだけでなく、音読する、発表する、復唱する、教える、ペアで相談する、グループで相談するなどのアウトプットの仕方が考えられます。子供によっては、先生の話聞くといったインプットの時間とアウトプットの時間を細かく繰り返して、集中力を切らさせないようにすることも必要です。今後の授業の参考にしてください。

問題行動	問題行動の背景	改善方法の例
授業中に友だちと話をしている。	授業の内容がわからないから友だちと話をしている。	子供がつまづいている点について実態把握をして、授業改善を行う。
	授業に集中することができないから、友だちと話をしている。	インプットとアウトプットの時間を組み合わせて、活動を切り替えながら集中が持続するようにする。

【例】



広島県立呉特別支援学校

担当者:専任教育相談主任(特別支援教育コーディネーター) 山田裕一

住所:呉市焼山北3丁目 22-1

TEL:(0823) 33-0300 FAX:(0823) 33-0308